子どもの未来が育つまち

第10回 10周年を迎えた次世代リーダー養成塾

第10回日本の次世代リーダー養成塾が、グローバルアリーナをメーン会場に7月26日から8月8日まで開催されました。市と株式会社スターフライヤーの支援で参加した、東日本大震災の被災地からの生徒を含め、全国から170人の高校生が参加しました。

■問い合わせ先
コミュニティ・協働推進課市民活動係（メイトム宗像）　☎（36）0311

宗像高校の相良貴久さんが決意表明「リーダー塾の入塾式」

養成塾は、海外留学生を含む全国の高校生を対象に、日本だけでなく、世界に通用する人材の育成を目指したサマースクールです。

7月26日の入塾式で、塾生代表として宗像高校2年生の相良（さがら）貴久さんは「養成塾での貴重な体験を通して、仲間と共に、将来、社会に貢献できる人物へと成長していきたいです。感謝の気持ちを忘れず、さまざまな活動に積極的に参加し、必ずこの14日間を実りあるものにします」と力強く決意表明しました。

今年で10回目の開催となった養成塾。塾生たちは各界で活躍する講師の講義や多彩なイベントを通じて多くのことを学びました。

力強く決意表明した相良さん

宗像市で生まれた出光佐三をモデルにした『海賊とよばれた男』の著者・百田尚樹さんに習うリーダーのあり方

入塾式の後、作家の百田尚樹さんと小川洋福岡県知事の対談形式の講義が開催されました。

百田さん（左）と小川県知事の対談式講義

「海賊とよばれた男～出光佐三から学ぶリーダーのあり方～」と題されたこの講義には、約200人の市民も参加。百田さんは出光佐三について「自分個人の欲や利益、出世を考えるのではなく、世のため人のためにするという強い信念で立ち向かったすごい人です」と紹介するとともに、出光佐三の理念『社員は家族。家族は信頼しているもの。家族を信じて世のため人のために動いていく』から、トップリーダーに大切なことを塾生たちに伝えました。また、「人を信じるかどうかということ、どんな環境下でもベストを尽くすこと」と力強く話しました。時々ユーモアを交えた軽快な百田さんの話に、受講生は熱心に耳を傾けていました。

塾生の目にも涙　中村俊郎さんの義肢装具作りの半生

39歳の時に1人で義足の会社を立ち上げた中村俊郎さんの講義「世界の途上国の人々を支えたい」が7月30日に実施され、世界で障がいのある人々に希望の光をともしたいと、義肢装具作りの半生を塾生たちに話しました。

成長に合わせて高価な義足を買い換えることができないフィリピンの少年のため、中村さん自らが現地に行き、いくつもの問題を乗り越えて義足を作り上げていく様子を撮影した映像が流れると、塾生たちの目には涙があふれました。

中村さんへの質疑応答では、「人のためになるようなことをしたいが、自己満足ではないかと思うことがある。中村さんは何のためにしているのですか？」と塾生が質問すると中村さんは「みんなに支えられ、元気に生かされてることに感謝している。自分が思っていることは、一歩一歩やっていると、だんだん解決していく。感謝の気持ちを持ち、30、40年続けていると、周りの人もそれが生きがいなんだと思ってくれる。時間がかかるけれど、理解されるようになる」と優しく丁寧に答えていました。

塾生の質問に優しく答える中村さん（右）

自分の夢と向き合う　夢ディスカッション

夢について仲間たちや実際に各業種で活躍している大人らと語り合う「夢ディスカッション」が8月4日、今回初めて実施されました。塾生たちは「人と関わる仕事がしたい」「経済が学びたい」など、自分の夢について話したり、各業種で活躍している大人らに「高校生のころ、どんな夢を持っていましたか」などと質問したりしていました。塾生たちは仲間が語る夢に真剣に耳を傾けていました。

各業種で活躍している大人らは「みんなしっかり夢を持っているね。その夢について、なぜそれがしたいのかを考えてみよう。自分の動機を少しずつ掘り下げて考えてみたら、何か見つかるかもしれないよ」などと塾生たちにメッセージを送りました。

畑中沙織さん（青森県・3年）は「各業種で活躍している大人が自分の高校生のころと比べながら話してくれたので、とても勉強になりました。夢が大きくなりました」と笑顔。姫野ソフィア聖佳さん（福岡県・2年）は「具体的な夢はまだありませんが、自分が何をしたいか、なぜしたいかが一番大事だと感じました」と話してくれました。

自分の夢について熱く語る塾生たち

高校生らしい発想でとことん議論　ハイスクール国会

養成塾のメーンイベントであるこれからの日本のあり方について議論する「ハイスクール国会」。今年のテーマは「高校生が考える憲法の未来」。塾生たちは高校生らしい発想で、これからの日本を考え、2週間とことん議論しました。

8月7日に開催されたハイスクール国会の発表では、谷井博美市長から総理大臣に任命された山谷（やまや）清和さん（青森県・2年）が司会を務めました。

実際の国会さながら内閣を中心に各省を立ち上げ、憲法草案から始まり、政策提言、それについての議論・討論が活発にされました。

山谷さん（右端）が司会を務めたハイスクール国会の発表

塾生の感想

●養成塾に参加して、「難民を助けたい」というはっきりとした夢を持つことができた。自分から進んで夢をつかみ取ろうと思った／門司禮（もんじ・れい）さん（東海第五高校2年）

●被災地枠で参加した11人で、被災地のことをみんなに知ってもらおうとスピーチをした。今後は、震災の復興の担い手になりたいと思っている／三上文佳（ふみか）さん（岩手県・2年）

●被災地の塾生のスピーチに心打たれた。生の声を聞き、衝撃を受けた／松崎未侑（みゆ）さん（愛知県・1年）

●アメリカの学校では、さまざまな国の生徒がいて、お互い分かり合えないこともある。イスラエルとパレスチナの子が柔道で交流を図ったという内容の講義を聞いて新鮮に感じた。自分も世界平和のためにできることがあるのではないかと考えた／秋吉大暉（だいき）さん（アメリカ・3年）

舞台裏

■食欲の秋、行楽の秋…。ここ数年、わが家は遠方の「秋」を満喫することが多かった■むなかたの「春キャン」も見どころ満載だった」が、今回の「秋キャン」も充実。そしてさらに魅力的。美食グルメは絶対に外せない■今年の秋は、買ったばかりのカメラをぶら下げ、両親を誘い「秋のむなかた」を満喫するプランを計画しよう（な）

■今年は例年になく暑い夏で、毎日「猛暑日」と聞かない日はなかった■そんな中、楽しく頑張る子どもたちの「夏の課外授業inむなかた」の取材で見せてくれる笑顔に癒やされた■また、ハイスクール国会での生徒の姿に感心させられるなど、多くの子どもたちの顔に出会えた。秋はどんなこと、人に出会うかな（ひ）

■市内の至る所で新市制10周年を記念する催しが開催され、今年の宗像はとくに元気がいい■その中の一つ、宗像ユリックス25周年も一緒に記念して開催される「宗像ミアーレ音楽祭」は、とうとう本番間近■さまざまなジャンルの音楽で包まれた宗像を楽しめる絶好の機会。私も市で秋の音色を楽しみたい（み）

市では、収集した個人情報を、収集の目的以外で利用することはありません。
広報紙は、古紙が配合された紙を使用しています。

広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。
▽発行：宗像市　▽住所：〒811-3492　福岡県宗像市東郷1－1－1
▽編集：秘書政策課広報・報道担当　TEL：0940-36-1055　FAX：0940-37-1242
：クロワッサン　メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp
▽印刷：株式会社 西日本新聞印刷